

住み続けられる国土専門委員会における主な論点

1. 「住み続けられる国土」の地域構造【平成 28 年度～】

- 都市と農山漁村が新しい形で相互補完的に共生し、活発に対流する地域構造は、いかにあるべきか。

1-1. マクロな地域構造：多自然居住地域

中小都市と農山漁村の両方の良さを享受する地域として、「多自然居住地域」の地域構造の望ましい姿（目標像）はいかにあるべきか。

1-2. ミクロな地域構造：小さな拠点、コミュニティ創造拠点

農山漁村の生活を守るために必要な「小さな拠点」に加えて、多世代の交流を促進する「コミュニティ創造拠点」はいかにあるべきか。

2. 移住・二地域居住、大都市における高齢化への対応【平成 29 年度～】

- 東京一極集中の是正や人口減少地域における人材確保に向けて、大都市から地方への移住や二地域居住、二地域生活・就労を促進するために、どのような政策を進めるべきか。

- 大都市縁辺部の住宅団地など、都市部でも先行して高齢化が進行する地域において、コミュニティの活動や「元気なうちの地方居住」を進めるために、どのような政策を進めるべきか。

2-1. 地域内外の対流：大都市地域と多自然居住地域との関係

2-2. 地域内での対流：多自然居住地域内の中小都市と農村の関係

3. 内発的発展が支える地域づくり、コミュニティの再生【平成 30 年度～】

- 内発的発展が支える地域づくりに当たっては、地域住民等が合意形成に向けて話し合いを繰り返し、自らの意思で立ち上がるというプロセスが重要である。このような地域づくりを推進するためには、どのような政策が必要か。

3-1. 地域づくりへの外からの多様な関わり方

3-2. 地域づくりに関する多様な合意形成手法